

## 事務事業評価表（一般事業）

1 事業名	博物館・美術考古館学習事業	コード	111112
-------	---------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課（博物館）	作成者 両角 加代子
--------	--------	---------------	------------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化・芸術の振興
		予算科目	学習事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	博物館法第3条9		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	子どもから大人まで、気軽に芸術と歴史（考古）に触れ、学び、学習の成果を発表することで、生涯学習を推進する。	
目的	対象者	市民及び来館者
	意 図	より多くの人々が蚕糸・美術・考古を楽しく体験・学習し、蚕糸博物館・美術考古館に対する興味を深める。

5 事業の実施内容		*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
【蚕糸博物館】		
○養蚕体験 春蚕、秋蚕（2回）配布 小学校等		
○ワークショップ ・わくわくふれあいサマーセミナー 定員20人、参加者22人（8/2） ・ものづくりフェア2014に参加 ・まゆ人形作り 定員5人、参加者29人（12/13、3/3）		
○小中学校、保育園学習支援 川岸小学校、長地小学校、岡谷小学校等への出前学習講座を実施		
【美術考古館】		
○ワークショップ ・土偶作り 参加者30人（10/12） ・ミニ画集作り（イルフ童画館共催） 参加者43人（11/4） ・クリスマスオーナメント作り 参加者5人（12/14） ・古代絹ワークショップ 参加者5人（1/13） ・独楽回しワークショップ 参加者23人（1/18、2/2）		
○ギャラリートーク ・美術展示室ギャラリートーク 参加者20人（11/7、3/8、3/21） ・考古展示室ギャラリートーク 参加者27人（11/8、11/23） ・古代絹展ギャラリートーク 参加者8人（1/25）		
○小中学校、保育園学習支援 来館団体への、考古・美術・企画展示室での作品解説等学習支援		
前年度の課題への対応	蚕糸博物館は、引き続き休館中であるため学習事業に制限はあるが、出前講座、まゆちゃん工房の活用等により、できるだけ対応した。 美術考古館は、開館以降、様々なワークショップ等を開催した。	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	ワークショップの開催日数			単位	日
実績値	5	3	15		
*指標の説明	ワークショップの開催日数				
② 成果指標（指標名）	参加者数			単位	人
目標値	250	250	250		
実績値	275	120	212		
達成度	110.0%	48.0%	84.8%		
*指標の説明	ワークショップ参加者数				
*目標値の設定方法の説明	ワークショップの募集定員				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	1,266,157	1,248,920	64,292	110,000
経常経費	1,266,157	1,248,920	64,292	110,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	2,080,000	2,400,000	1,040,000	1,600,000
正規職員の人数(人)	0.26	0.30	0.13	0.20
③ 合計コスト(①+②)	3,346,157	3,648,920	1,104,292	1,710,000
前年度比		109.0%	30.3%	154.9%
財源	3,246,557	3,641,420	1,093,292	1,608,000
内訳				
一般財源	3,246,557	3,641,420	1,093,292	1,608,000
特定財源	99,600	7,500	11,000	102,000
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	669,231	1,216,307	73,619	
前年度比		181.7%	6.1%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	1	
成果指標の実績値 前年度比	176.7%	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	1	0
成果指標の目標値 達成度	84.8%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>美術考古館は、更なるワークショップや学習事業の内容の充実を図る必要がある。 美術考古館単独での、学校との連携を深めていく必要がある。(見学、交流ひろばの活用) 蚕糸博物館は、新施設開館後の具体的な事業内容の検討が急務である。</p>
改善方法	<p>(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>学校等、施設以外にも積極的に向き、学習事業の支援を行う。 館単独での開催だけでなく、周辺施設や他部署と連携・活用し、共催の学習事業を実施していく。 ボランティアを養成し、学習事業を協働で開催できる体制作りに取り組む。</p>
改善開始時期	平成26年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	---	---